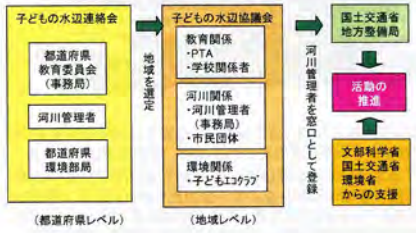
＜子ども・保護者の視点にたつ事故予防の生活デザイン＞

環境学習の事例に学ぶ～ 近木川（大阪府貝塚市，1996～2010頃）～

神吉紀世子　当時近木っ子会議メンバー

「子どもの水辺」再発見プロジェクト

・文部科学省、国土交通省、環境省が連携し平成11年に創設
・子どもが遊びやすい水辺を選定し、川を利用した子どもたちの体験活動の充実を図ります
・「子どもの水辺」のうち特に拠点的な河川整備を行う箇所については、「水辺の楽校」として活動を支援しています。



子どもの水辺　推進フロー図

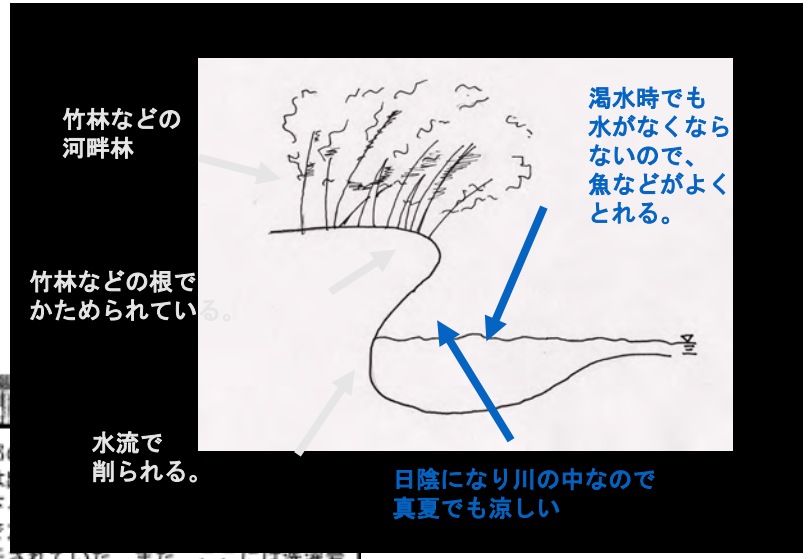
活動の様子

子どもの水辺再発見プロジェクト・水辺の楽校プロジェクトに関

国土交通省 河川局 河川環境課
TEL：03-5253-8111(代)　FAX：03-5253-1603
E-mail：RVB_KKA@mlit.go.jp
お近くの事務所

水質検査・環境調査。安全対策と準備を保護者と共有、地域と共有

昔はこの曲がった部分は90度ちかく急に曲がっていた。そのため、大雨が降った後などの急な流れによって土がえぐられた。そこには大きな穴が出来て、普段水量が少ない時は深い水溜り（深さは2mくらいあった）となり、コイやフナ、ウナギなどたくさんの生き物がいた。そこは子供たちにとって遊び場となっていた。土が崩れることなく穴が出来たのは、そこに生えていた竹の根のためである。農家は田んぼを守るため竹（水に強い）を川沿いに植えてた。（特に川が蛇行している場所）大きい流れの川にはマダケ、ハッチャクを植えて、水路にはオナゴダケを植えていた。



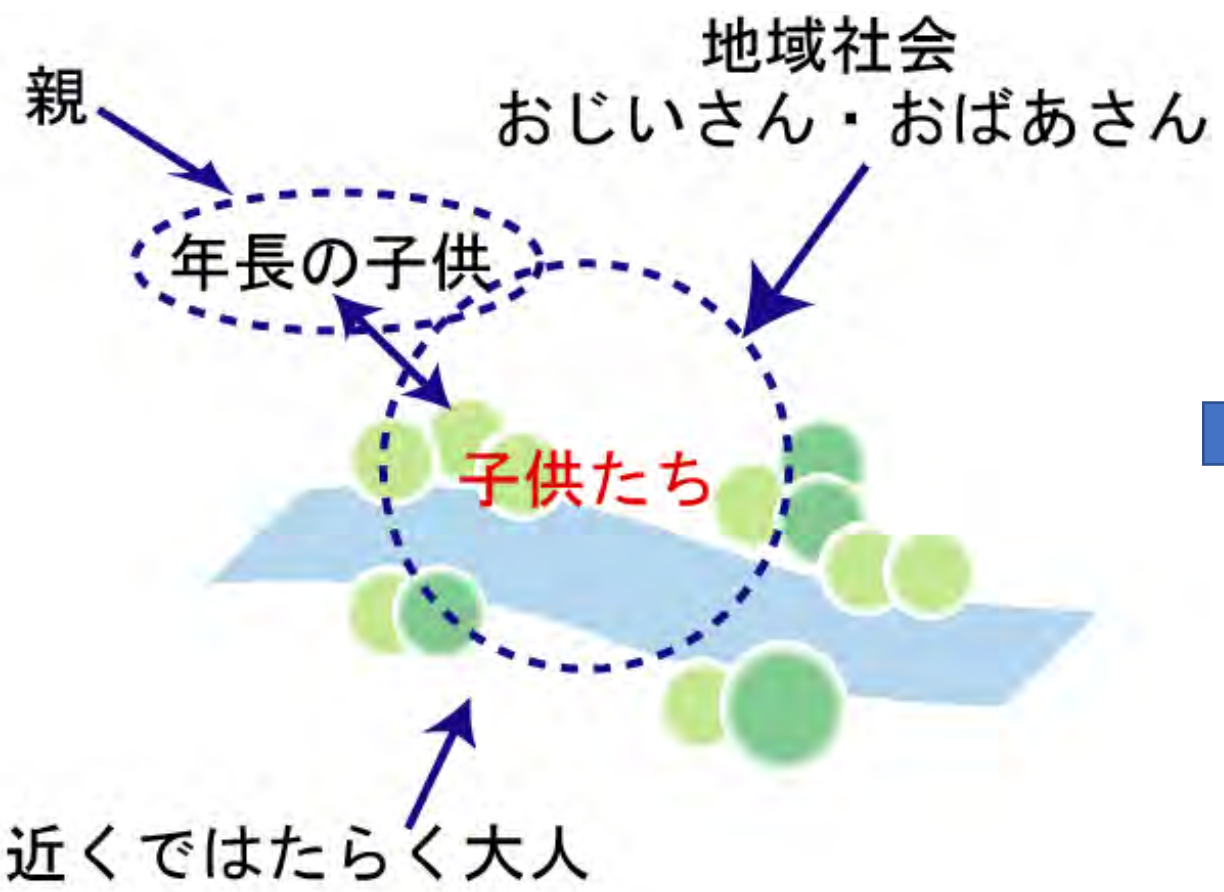
向かって上部
下りることは
が緩やかで下
てもきれいで
原で友禅が干されていた。また、ここには洗濯岩があり昔は人々が洗濯していた。現在でも岩の形は残っている。戦後橋の下には、日暮れ時に石才や橋本・麻生中の人々がゴミを捨てに来ていたので、ゴミの山があった。

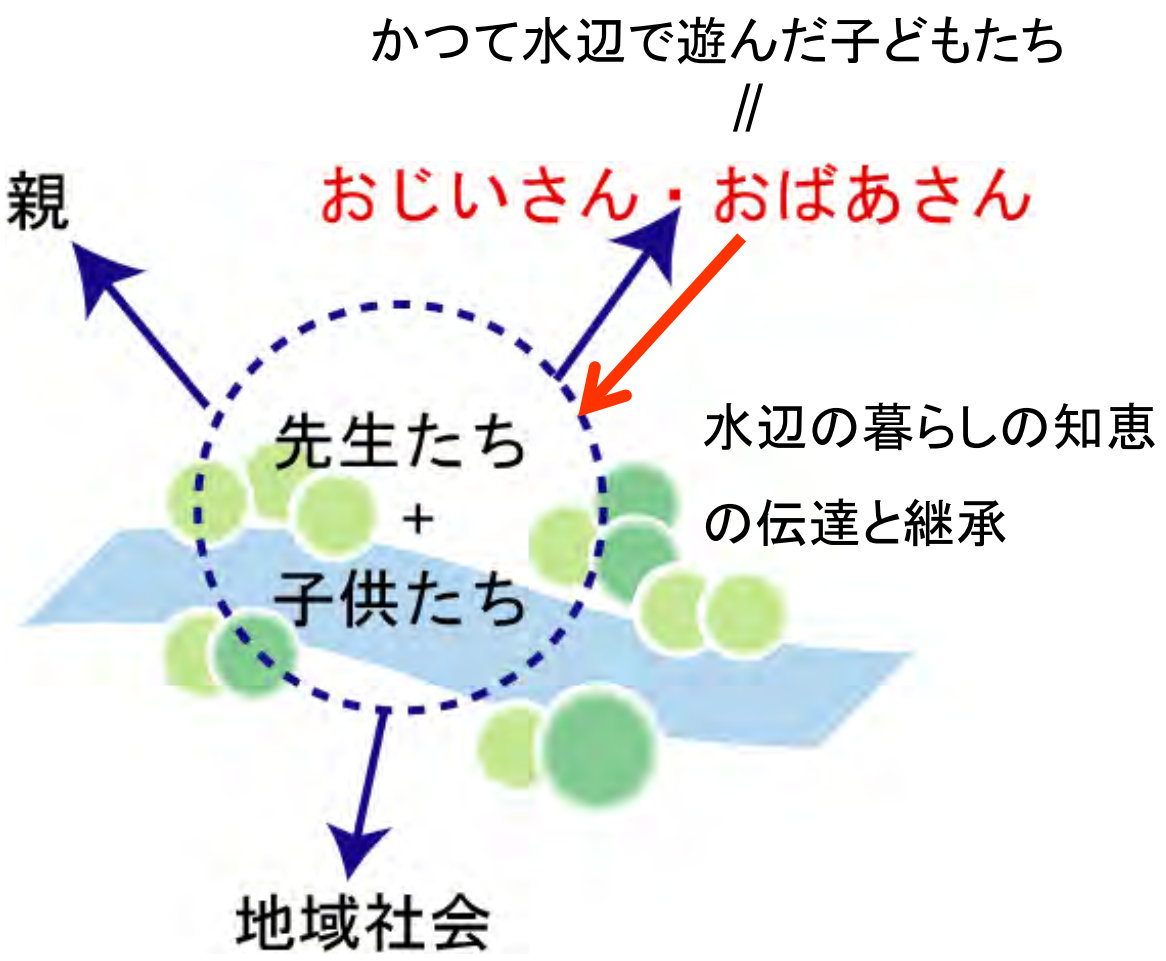
この辺りの川や池に棲む生き物は、ドンコモロコ・フナ・コイ・シジミ・カラスガイ・モズクガニ・ザリガニ・ウナギ・ナマズ・カエル・カブトエビ・ヒル。すかんぽ・ひしである。昔は水がきれいであったのでシジミなど食べていた。川には食料が豊富にあった。また川から農業用水を引いていたので生活から欠かせないものであった。子供たちにとっても毎日の遊び場になっていた。体がふやけるほど川で遊んでいた。

川の水質改善＋自然再生

子どもが提唱したことから始まる府市の取組

→まずは
「地域でのインビュー」



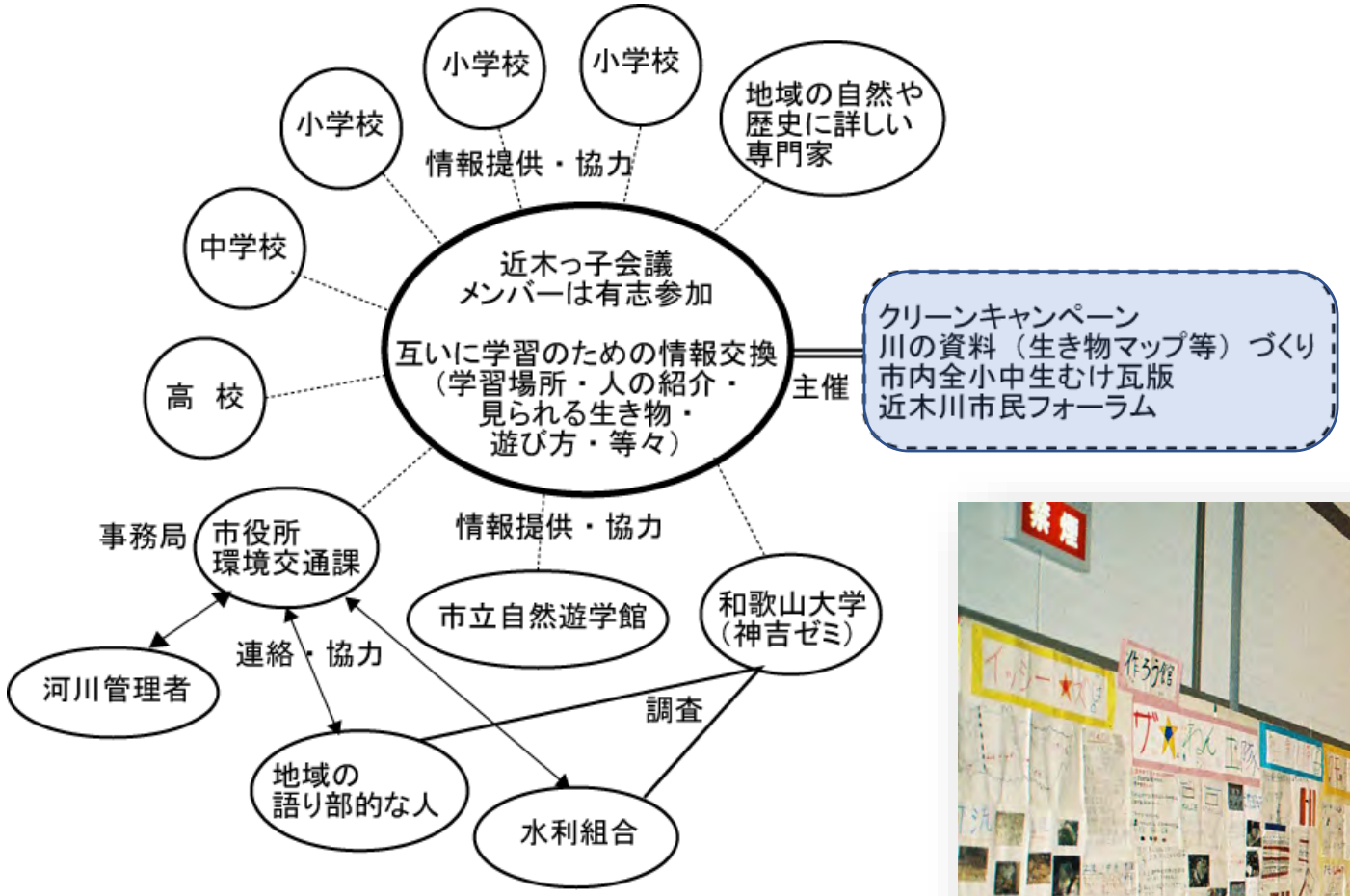


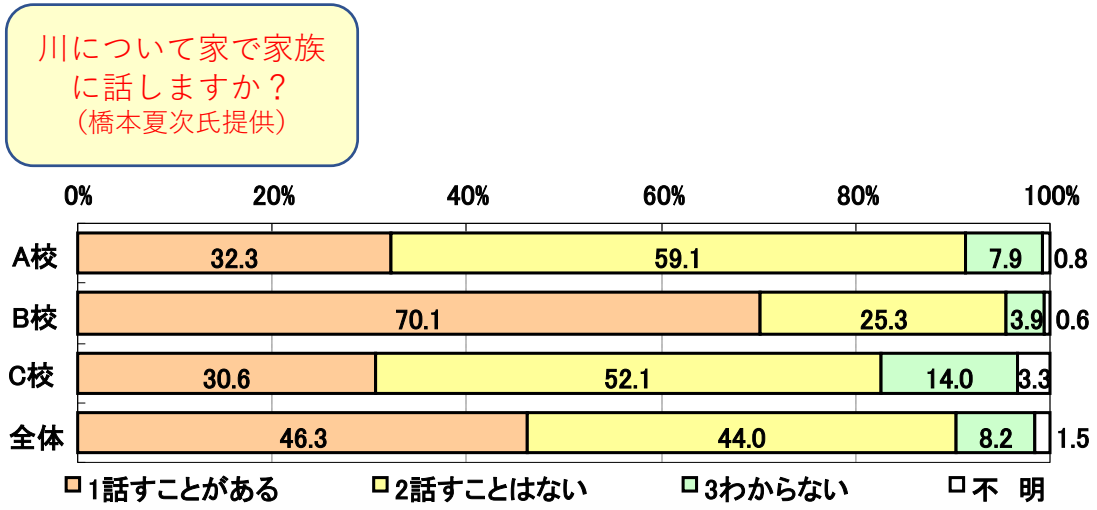
1960年代まで：

日中、水辺の子どもの周りに
多くの大人が居て、注意できる

現代：

日中、水辺の周りに大人はいない
→働きかけて、守る社会をつくりだす





情報の共有が必須

子どもと保護者と会議
学校間・組織間・世代間

よく知って、遊ぶ

環境調査・理科の勉強・中流と上流の違い観察

15年前を今振り返ると
ライフジャケットを着る知恵が
なかったことがわかる
→事例を超えて、継続する
情報の蓄積を。